

## 令和5年度 教育事業「ふれあいデーフェスティバル冬 in おおすみくん家」

- 1 趣 旨 一般の方々に、県内の青少年施設を中心とした活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、青少年施設の利用促進を図る。
- 2 期 日 令和5年12月2日（土）
- 3 参加対象 体験活動に興味のある家族
- 4 協賛企業 有限会社森伊蔵酒造、鹿屋市漁業協同組合、垂水市漁業協同組合、有限会社泰夫水産  
大海酒造株式会社、株式会社桜島
- 5 参加者 330人
- 6 協力団体 県立青少年研修センター、県立南薩少年自然の家、出水市青年の家、県上野原縄文の森、鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター、県立霧島自然ふれあいセンター、県立鹿屋農業高等学校、県立鹿屋工業高等学校、都城工業高等専門学校、ドローンOP鹿児島、アウトドアショップキャメル、WADATAダンススタジオ、光華こども園、ねじめ茶寮、Food Truck M（ま一助）、Re；CHART（リチャート）、Food'sビッキョン、国立大隅青少年自然の家レストラン、国立大隅青少年自然の家、法人ボランティア

7 日 程	時間	内容	詳細など
	9:30	受付、開会	出展ブース（クラフト、体験、販売、食事、抽選会など）
	10:15	ステージ①	光華こども園
	11:15	ステージ②	鹿屋工業高等学校吹奏楽部
	12:00	休憩	
	13:15	ステージ③	WADATAダンススタジオ
	15:00	閉会	

### 8 事業運営上の配慮

- 協力団体を新たに開拓するため、職員間で検討を重ね、新規団体候補へ丁寧な説明を行った。
- 一般開放の事業に適切な保険を選定するため、他施設の情報を集めながら所内で検討を重ねた。
- 新たな広報手段を試行する中で、参加者の減少が見込まれたため、規模の大きい近隣の学校へ直接訪問し、白黒のチラシを配布することで参加者増に努めた。その際、広報方法の変更の意図と今後の方向性について、ヒアリングを行った。

### 9 成果

- 鹿屋商工会議所や二火会等の協力を得て、協力団体の増加につながった（新規協力団体数7団体）。このように地域に根差した取り組みをする中で、来年度新たな協賛企業も出てきた。
- 一般的に経費が高い紙の広報からウェブ・システムを使った新たな広報の試行・実施できたことは、今後予算確保が難しい中、他事業の広報手段の参考となりえる。

